

平成 3 0 年度業務実績報告書  
概要版（案）

平成〇年〇月  
公立大学法人  
名古屋市立大学

## 第三期中期目標

前文 大学の基本的な理念 全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす

今日の人類の大きな課題のひとつは、人間自身が生み出す、社会及び自然環境の複雑で急速な変化に起因する諸問題を克服して、持続可能な共生社会を形成することである。

名古屋市を設立団体とする公立大学法人名古屋市立大学は、市民によって支えられる市民のための大学として、知の創造と継承をめざして真理を探究し、それに基づく教育によって社会の発展に貢献する人材を育成する。あわせて、広く市民、行政などと連携、協働して知の拠点として魅力ある地域社会づくりに貢献するとともに、教育・研究の成果を社会に還元することによって、私たちのまち名古屋の大学と実感される、全ての市民が誇りに思う愛着の持てる大学として活動することを使命とする。

このような基本的な理念の下、第三期中期目標期間においては、少子化・高齢化が進行する社会の現状を踏まえて、子育て世代や高齢者の支援、子どもの育成及び若者の活躍の支援、地域の医療と健康・福祉の向上、男女平等参画の推進など、名古屋市を取り巻く諸問題の分析・解決に寄与する。さらに、グローバル化などが進展する社会情勢下で、アジア競技大会の開催やリニア中央新幹線の開業を見据えた都市機能の集積・強化が図られる中で、都市魅力の向上、地域経済・産業の発展、国際化の推進に寄与する。これらの取り組みを通じて、名古屋市とともに発展する大学としてさらなる飛躍をめざす。また、ガバナンス機能を強化し全学が一体となって教育・研究・社会貢献に取り組み、国内外に広く大学の魅力を発信することにより、多くの若者や研究者に選ばれ、産業界や行政などとの連携を深め、世界をリードする大学への発展をめざす。

以上の考え方にに基づき、第三期中期目標期間においては、次の教育・研究・社会貢献の活動に率先して取り組む。

- 1 名古屋市立大学は、医・薬・看護・経済・人文社会・芸術工学及び総合生命理学の全七学部を有する総合大学としての特性を活かして、分野横断的な知を修得させ、主たる専門分野のみならず、連関する分野への志向性と幅広い知見を養う教育を行う。これらの教育を通じて上質かつ豊かな感性で社会と向き合う力を育み、地域社会と国際社会に貢献し、次世代をリードできる優れた人材を輩出する。
- 2 名古屋市立大学は、最先端の研究成果を世界に発信する地域の研究拠点として、健康・福祉の向上、生命現象の探究、経済・産業の発展、都市政策とまちづくり、子どもの育成支援、国際化の推進、文化芸術の発展などに関する研究課題に重点的に取り組む。
- 3 名古屋市立大学は、地域に開かれた大学として、広く市民や名古屋市などとの連携を一層強化し、教育研究成果を還元することを通じて、地域や行政の課題解決に寄与する。また、地域の医療の発展に中核的な役割を果たすとともに、生涯にわたる教育の推進に積極的に寄与するなど、知の拠点として全学的に地域社会に貢献する。

名古屋市立大学は、教育・研究・社会貢献に関するこれらの活動を市民の理解を得ながら推進していくために、より積極的に情報を発信し、説明責任を果たす。また、大学の運営体制の自律性・弾力性を強化し、財務内容の改善に取り組むことで、運営の基盤を強化する。

## I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

### 第1 中期目標の期間

平成30年4月1日から平成36年3月31日までとする。なお、本中期目標を達成するための計画である中期計画を公立大学法人名古屋市立大学が策定するに当たっては、数値目標と実施年度の目標を定めて実施するものとする。

### 第2 教育研究上の基本組織

名古屋市立大学に、別表に記載する学部及び研究科並びに附属病院を置く。

#### <別表>

学部	医学部 薬学部 経済学部 人文社会学部 芸術工学部 看護学部 総合生命理学部
研究科	医学研究科 薬学研究科 経済学研究科 人間文化研究科 芸術工学研究科 看護学研究科 システム自然科学研究科

## 全体的な状況

- 中期計画の進捗状況として、大項目と小項目の見出しをつけて読みやすく記載する。  
なお、末尾に年度計画番号又は特記事項を表記し、本冊子等を参照しやすくする。
- 「重点項目」については、第三期中期目標前文の記述が「教育」「研究」「社会貢献」「その他法人運営」となり、大項目の区分との違いがないため、廃止する。

小項目評価集計表

自己評価	年度計画 項目数	年度計画 番号	I	II	III	IV	III及びIV の割合
			未達成項目 (教育・研究のみ)				
I 大学の教育研究等の質の向上に関する項目							
第1 教育に関する項目	46	[1] ~ [46]			—	—	—
第2 研究に関する項目	20	[47] ~ [66]			—	—	—
第3 社会貢献等に関する項目	8	[67] ~ [74]					
第4 大学の国際化に関する項目	6	[75] ~ [80]					
第5 附属病院に関する項目	12	[81] ~ [92]					
II 業務運営の改善及び効率化に関する項目	3	[93] ~ [95]					
III 財務内容の改善に関する項目	8	[96] ~ [103]					
IV 自己点検・評価、情報の提供等に関する項目	3	[104] ~ [106]					
V その他の業務運営に関する項目	10	[107] ~ [116]					
合計	116						

(小項目評価の基準)

- IV : 年度計画を上回って実施している
- III : 年度計画を順調に実施している
- II : 年度計画を十分には実施していない
- I : 年度計画を実施していない、または大幅に下回っている

項 目	年度 計画 番号	自己 評価
教育に関する 項目	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	

項 目	年度 計画 番号	自己 評価
教育に関する 項目	30	
	31	
	32	
	33	
	34	
	35	
	36	
	37	
	38	
	39	
	40	
	41	
	42	
	43	
	44	
	45	
	46	
	研究に関する 項目	47
48		
49		
50		
51		
52		
53		
54		
55		
56		
57		
58		

項 目	年度 計画 番号	自己 評価
研究に関する 項目	59	
	60	
	61	
	62	
	63	
	64	
	65	
	66	
社会貢献等に 関する項目	67	
	68	
	69	
	70	
	71	
	72	
	73	
	74	
大学の国際化 に関する項目	75	
	76	
	77	
	78	
	79	
	80	
附属病院に 関する項目	81	
	82	
	83	
	84	
	85	
	86	
	87	

項 目	年度 計画 番号	自己 評価
附属病院に 関する項目	88	
	89	
	90	
	91	
	92	
業務運営の改 善及び効率化 に関する項目	93	
	94	
	95	
財務内容の 改善に関する 項目	96	
	97	
	98	
	99	
	100	
	101	
	102	
	103	
自己点検・評価、 情報の提供等に 関する項目	104	
	105	
	106	
その他の業務 運営に関する 項目	107	
	108	
	109	
	110	
	111	
	112	
	113	
	114	
	115	
	116	

(注) 教育及び研究に関する項目の自己評価については達成又は未達成を記載

## 項目別の状況

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### 第1 教育に関する目標 及び 第2 研究に関する目標

法人として特色ある取り組み

未達成の事項

- ・業務実績報告書特記事項の「法人として特色ある取り組み」及び「未達成の事項」を転記する。

#### 第3 社会貢献等に関する目標 以降

自己評価がIVの事項

法人として特色ある取り組み

未達成の事項

- ・業務実績報告書特記事項の「法人として特色ある取り組み」及び「未達成の事項」を転記する。
- ・「自己評価がIVの事項」と「法人として特色ある取り組み」の記載に重複が生じないように工夫する。

## 数値目標の状況

- ・数値目標の状況について大項目の分類ごとに記載